第４２３回鉄鋼流通問題懇談会

２０１２年１１月１９日（月）１４：３０
茅場町「鉄鋼会館４階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議　題

１．配布資料説明（全鉄連）
２．全鉄連情勢報告
（１）地区の状況
〇東京、大阪、愛知、新潟地区概況報告
（２）その他地区の概況
〇鉄流懇１１月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
（３）総括：林全鉄連会長
３．意見交換
４．経済産業省挨拶
５．鉄流懇会長挨拶
６．その他

〇次回以降会議予定
２０１３年2月２０日（水）１４：３０　～　　於：

鉄鋼流通問題懇談会　品種別動向について（2012 年 11 月）

発表者 発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事	阪和興業	三井物産スチール
１．需給動向（景況感）	本来、秋口は需要期にあたるものの依然として荷動きは盛り上がりに欠け低位横ばい基調。メーカーの値上げ発表もあり、大きな市況下落はないが、実需の低迷から全体としての底上げには至っていない。	8 月末の薄板三品在庫は 408 万 9 千トン（前月比＋17 万 2 千トン、在庫率 2.32 ヵ月）と 3 カ月ぶりの 400 万トン超となり、在庫削減は一服状態となった。エコカー補助金の終息に伴う自動車の生産減や中国の反日暴動の影響も懸念されるなど先行きの不透明感も増しており、在庫過剰感は依然継続している。一方、鉄鋼メーカー側の一部には市中在庫は減少し、今年度下期は堅調な需要が見込まれるという見方もあり、需要に見合った生産を行い市況の上昇に努める動きもある。	９月末厚中板在庫は、３４８千㌧で前月比４千㌧（１％）増加。出荷は、１５９千㌧と７千㌧（４％）減少で、リーマンショック以来の低水準。在庫率でいうと、２１７．８％と上昇しており、出荷の減少が在庫率の上昇を招いている。厚板需給は緩和しており、各メーカーより減産強化が唱えられている。切板価格は弱含み推移。	棒鋼：電炉メーカーの販売姿勢はスクラップ価格軟調傾向なるも各社反転も視野に入れ、又、年末以降に出件予想される首都圏マンション、再開発案件等の需要増を見込み、製品販売価格維持に注力中。一方､流通の安値提示も有ることから購入側は様子見。製品相場は年末までは弱含み横這いが予想される。 形鋼:H 型鋼の荷動きは小口ではあるが荷動き堅調。流通各社市況上げに注力するも上げきれず弱含み横這いの状況。
２．需要産業動向	自動車分野については、エコカー減税の終了や中国向けの大幅な落ち込みよりカーメーカー各社下期生産内示を大幅下方修正。造船については、世界的な船舶過剰感から新造船需要は低迷、各社能力削減を行い生き残りを図っている状況。建機については、中国の景気減速が響きマイナス要因はあるものの鉱山向けの世界需要は拡大。建築土木については、需要期に入り荷動きは上向いており、特に土木関係は東北震災向け港湾・道路工事を中心に活発化。建築向けの需要本格化は来年度以降を見込む。	8 月の国内自動車生産台数（四輪車）は 73 万 3 千台（前年同月比＋4.53%）と 11 カ月連続で前年同月を上回ったものの、エコカー補助金終息を控え前年同月比較の伸び率は鈍化。8 月の家電製品生産も省エネタイプへの買替需要に一服感が出たことから、国内生産はエアコン 33 万 1 千台（同▼26.8%）、冷蔵庫 18 万 4 千台（同＋8.7%）、洗濯機 14 万 2 千台（同▼18.1%）となった。 建築分野では、前年同月比で持家▼9.1%、貸家▼2.7%、分譲▼2.5%となり合計 7 万 5 千戸（同▼5.5%）と 3 カ月連続で前年同月割れとなった。 建築中心に下期に期待されている東北地区の復興関連需要については、民需主体である程度の荷動きを確保するものとなっていたが、中小の民間需要の受注に一服感が出たことから、今後は大型の復興需要に向けた、土木関連鋼材需要に期待が集まっている。	９月末造船手持工事量は２、８２５万ＧＴで、前月比３６万ＧＴの減少（２ヶ月連続）。また、９月の建設機械出荷金額は２０１５億円で前年同月比１１．８％の減（２ヶ月連続）。内訳は内需が８６３億円で２６．６％の増。外需は１１５２億円で２８．１％の減。アフリカと北米を除く全地域で前年同月実績を下回った。中国は７６．２％減、欧州も４７．９％減。建築ＦＡＢの山積は、１０－１２月はパンパンで、１－３月も埋まりつつある。	棒鋼：10 月の関東地区の新規明細投入量は前月比若干減少し約 20 万ｔ程度と推定される。 形鋼：H 型鋼 10 月末ときわ会在庫は全国で 183,500MT（前月比+2.3%）引続き小口建築物件中心に需要は堅調だが価格横這い。このタイミングにメーカーの値戻し表明有り、今後の相場上昇が期待される。
３．輸出入動向	2012 年 9 月度鋼管輸出量は継目無鋼管：5.0 万トン（前月比▲7.0%）、溶鍛接鋼管：5.8 万トン（前月比▲54%）。輸入量は、溶鍛接鋼管:1.3 万トン（前年同月比+11.6%）となった。	8 月の薄板三品の入着量は 24 万 7 千トン（前月比▼3 万トン､前年同月比▼3 万 7 千トン）となった。2011 暦年 3Q（7～9 月）の入着量合計 95 万 7 千トン（31 万 9 千トン/月平均）に比して減少傾向にはある。国別では中国から 4 千トン（前月比▼11 千トン）、台湾から 67 千トン（同＋5 千トン）、韓国から 163 千トン（同▼32 千トン）。	９月の輸入通関は、４３千㌧（前年同月比２７．１％増）で３ヶ月連続増。内韓国が３８千㌧、中国２千㌧、台湾２．７千㌧。輸出は、３１３千㌧（前年同月比１２．１％増）で３ヶ月連続増。内韓国向が１２１千㌧、中国５３千㌧、台湾２３千㌧。	11/9 関東鉄源協同組合の輸出入札は海外市況の上伸が反映され前月比+@3.0 となり、国内電炉メーカー購入価格を大幅に上回る落札になった。
４．海外市場動向	油井管：アメリカ油井管市場は輸入材の増加、及び国内ミルの生産能力 UP などあり価格は下落中。日本ミルは、シームレス高級材は引続きタイトであるが、米国需要の低下の影響で品種によっては若干の空き、価格の低下も見られる。 ラインパイプ：本年上期から続いていた原料価格下落によるパイプ母材（HRC,Plate）価格も10月上旬から下げ止まりしている。来年上期以降の需要は横ばいとなる模様。	世界経済を俯瞰すると、債務危機に揺れる欧州の景気が低迷し、米国も安定的な回復軌道に乗れない状況が続いている。アジアでは、中国の経済成長率が8%台を割り込み､台湾がマイナス成長に陥るなど輸出主導型のNIEsの減速も著しく、全体的に停滞感が漂っている。 海外鉄鋼市場では､中国ミルの粗鋼生産量は8月中旬でも193万トン/日と最高水準を維持している。一方で需要の過半を占める建材向けが不動産購入規制の影響で低迷するなど、鉄鋼メーカーの生産が需要に見合わない過剰レベルにあることは明らかである。宝山鋼鉄は12年度の粗鋼生産量を当初予定の2,525万トンから2,398万トンに5%引き下げるなど生産調整をするが、かかる動きは限定的と考えられる。	１２年度の韓国の鋼材内需は、５、４６４万㌧と３．１％減少。韓国の造船建造量でいうと、１２年度では３、４９０万ＧＴ（前年比１．７％減）だが、７－１２月では１、３９０万ＧＴ（前年同期比２２．８％減）と月を追うごとに悪くなっている。 １０／２５東国製鋼が輸出価格の値上げを発表。	スクラップ：高炉原料急落や需要低迷を受け 8 月中旬以降の国際スクラップ価格は下落を続けていたが､10 月末には米国東海岸で発生した大型ハリケーンの影響で物流が停滞したこと､又冬場の発生減により 11 月以降の米国スクラップ価格は反転しており、足元国際スクラップ価格は強気調。 形鋼:実需の裏付けがある地域＝東南アジア、シンガポール、中近東等に於いてはバイヤーの値下げ要求厳しいが、各国のサプライヤーは価格対応している。以外の地域は更なる下落を懸念し在庫積み増しに消極的。
５．トピックス				日系企業の海外建設受注は急減していたが､2009 年以降徐々に回復しておりアジア地域(シンガポール、香港、ベトナム等）における大型インフラ案件始め投資が拡大。それぞれ実績のある地域での成果が徐々に現れてきている。

鉄鋼流通問題懇談会　メーカー発言（2012年11月）

発表者 ＼ 発表項目	メーカー ＪＦＥスチール
１．需給動向（景況感）	・ 日本経済は輸出の減少と内需の停滞によって景気後退局面に入った可能性が高い。輸出数量指数が減少傾向をたどる中、10月の乗用車販売は２ヶ月連続での前年割れとなり、９月の鉱工業生産指数は前月比4.1%減と震災以降最大の落ち込みとなった。海外では、米国、ASEANは回復基調を維持しているが、欧州をはじめ中国・インド・ブラジルなども低迷を続けており、世界経済は停滞局面が続いている。 ・ 国内の１０月の粗鋼生産は前年同月比▲６．７％の８８４万トンと２ヶ月連続で前年比マイナスとなった。（※9月880万ﾄﾝ）普通鋼鋼材出荷（９月）は前年同月比０．４％減の６１０万トンと２ヶ月振りに増加した。一方、９月の普通鋼鋼材輸入は前年同月比＋２４．５％の３８．８万ﾄﾝと２ヶ月ぶりに増加した。こうした中、９月末の普通鋼鋼材在庫（国内）は５６８万トンと２ヶ月連続の増加となった。 ・ 海外では、９月の世界粗鋼生産（62カ国）が、前年比横ばいの１億２３６４万トン となった。また１０月の中国粗鋼生産は５９１０万ﾄﾝと前月比＋１１５万ﾄﾝの増となり、中韓ミルの生産及び輸出量は依然高水準であり、実需が弱い中でいくばくか持ち直しはじめた鋼材市況への影響が懸念される。中韓ミルの生産・輸出動向には引き続き注視が必要である。 ・ 鋼材内需は製造業向けを中心に急速に減速感が強まっており、外需はアジア経済減速と日中関係悪化等によって不透明感が高まっている。アジア鉄鋼需給の大幅緩和を始め、高水準が続く輸入鋼材、長引く円高と国内製造業の海外生産シフト、欧州及び新興国経済の停滞など日本鉄鋼業を取り巻く環境は極めて厳しい。引き続き内外経済動向、鋼材需給動向等へ細心の注意を払っていく。
２．需要産業動向	〔建　築〕９月新設住宅着工戸数７．４万戸（前年同月比１５．５％増）。４ヶ月ぶりのプラス。 年率換算着工戸数は８６．６万戸。９ヶ月連続で８０万戸を上回った。 〔自動車〕１０月国内販売３３．６万台（前年同月比７．１％減）。２ヶ月連続のマイナス。 ９月完成車輸出３８．４万台（〃１９．６％減）。２ヶ月連続のマイナス。 ９月四輪車生産７７．４万台（〃１２．４％減）。１２ヶ月ぶりのマイナス。 〔産業機械〕１０月工作機械受注　前年同月比６．７％減の９４３億円。（９月　１０７４億円） 〔造　船〕９月末手持工事量　２，８２５万ＧＴ（前月比１．３％減）。
３．輸出入動向	〔輸出〕９月の全鉄鋼輸出は、３５７万トン、５ヶ月連続の増加。 〔輸入〕９月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比２４．５％増の３８．８万トンと２ヶ月ぶりに増加した。国別では、韓国（前年比２４．８％増）、台湾（〃５２．５％増）が２ヶ月振りに増加、中国（〃３．８％減）が７ヶ月連続で減少した。
４．海外市場動向	・ 中国の１０月粗鋼生産は、５９１０万トン（前年比８．１％増　前月比２．０％増）